

令和5年度 学校評価書

令和6年3月22日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	自己評価		最終評価(A～C)
	目 標	具体的取り組み	
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	<p>○コロナ禍での授業について、 ・密にならないように、学年を跨ぐ行事は行わない。 ・平日は黙食し教員が指導。 ・土日の部活動は午前のみ、午後のみとし屋食はとらない。出来る限り対面での授業を行う。 ・パソコン上で講義を行い、ノートを作成、教員がリモートでノートチェックが出来れば理想である。しかし、現実的には、毎日登校時間を決めその時間にノート提出、クラス全員を見る場合は教員が2人必要</p> <p>○中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○高校ICT科については家庭学習でも落ち着いて検定勉強が出来るように指導する。 ○高校普通科、特に3年生は共通テストが代わり、暗記だけでは点数にならない。 家庭学習は常に進路を意識させる。 ○部活動は集団での練習制限される中での活動であるため常に個人練習が出来るように考えておく。 ○コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指す。教員の情報処理能力向上と設備の充実。</p>	<p>○コロナ禍での授業について、 ・密にならないように、対面での授業を行う。少人数学級で良い授業にはなるが、授業時間、日数が倍になる。大勢で行う場合は、広い部屋を使う。 ・もし、リモートになったら授業は全教科ではなく、出来る教員の教科だけを行う。実習・机間巡視や個別指導が多くなる教科は分けて考える。 ・パソコン上での講義は、出来る教員が行っているだけで、全員への講習は行っていない。今後は外部から講師を入れ行う必要がある。朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 ○中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○高校ICT科についても、出来る限り対面で行う。 ○今年度の普通科高校3年生は全国的にコロナと共通テストの内容が定まらないため大変だった。常に進路を意識させるため生徒との個別の連絡を密にする。共通テストの模試を取り入れ、今年度の問題形式を考え、家庭学習に目的意識を持たせる。 ○部活動は学校での練習が短くなり、短時間で効率的な練習が必要となってくる。毎日毎時間声をかけ、心が折れないように励ます。 ○コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指すも、校内は検温、消毒、マスクとの制限のほか、大きい声を出さないことや友達同士くっつかないことを心がけているため、生徒の元気なところや明るい所が見えなくなっている。外で大きい声が出せる所では大きい声で歌や発表をしてほしい。密着が多くなってきたのでその都度注意。</p>	<p>B</p> <p>今年度は普通科が全員共通テストを受けることができませんでした。昨年度はセンター試験から共通テストへ移行し、内容が大きく変化しています。全国的にも一昨年に比べ平均点が大きく下がっていますが、暗記だけにとらわれずしっかり勉強した生徒は余り今迄と点数が変わらなかったように思います。今年度は昨年以下がすぎた数学の平均点も元に戻ってきたようです。学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。本校も検定資格を多く取得できた生徒とそうではない生徒に分かれたように思いますが、少し検定取得率が下がっているのが現状です。コロナ禍というだけではなく授業内容の再編が必要です。今年はコロナ前と同じような結果が出せるように工夫しなければならなかったと思います。部活動の試合や発表会、検定が正常に戻ってきており、その時の状況に応じた講習や補講等を行い対応し次の手を打てるのが生徒にも教員にも必要だったと思います。</p>

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
B	<p>生徒・職員のことを考え、より良くしようという思いはとても伝わります。ただ、資格試験の合格者は例年の人数に比べ少なかったように思われますので、今後の指導を期待します。</p>

令和5年度 学校評価書

令和6年3月22日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

II. 各部・領域等に関すること

	自己評価		
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○道徳教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み 	ICT科では、商業科目の検定対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。普通科では、基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し、伝統産業を学び、問題点や解決策などを探究した。地域貢献教育の一環として「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」に高校3年生ICT科が参加し、企業のサポートをした。また、デジタルアレンジコースでは、プロジェクトマッピングに挑戦し、地域住民の方楽しんでもらえるイベントの企画・運営を行った。	A 本年度も教育活動に影響がないよう取り組んだ。取得資格では、6年連続で税理士試験の簿記論に2名合格、財務諸表論にも1名合格することができた。他にも、日商簿記1級に2名、全経簿記上級に1名、英検準1級に2名合格するなど、全国でもトップクラスの実績を残した。また本年度の卒業生では、全商3種目以上1級合格37名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」では、受付をはじめ物販のサポートや会場周辺の警備、小学生の案内誘導補助など様々な仕事を体験することができ、企業とのつながりを深めることができた。また、デジタルアレンジコースで学んでいる動画編集では、校舎に映像を描写し、近隣の住民や学校説明会に訪れた中学生と保護者に高評を得ることができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動の原点回帰 ○基本的な生活習慣の徹底 ○校内外での安全管理 ○愛される学校作り 	日常的な生活指導に加え、登下校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校内外における風紀指導、定期的な服装・頭髪検査や遅刻者の調査・改善指導等を実施した。また、文科省で発表された新生徒指導提言に沿った校則の見直しや本校における教育課題への対応を検討した。	B 今年度はコロナウイルス感染症の5類への移行によって、教育活動の原点回帰を目標に、生徒指導に関する活動についても積極的な取り組みを行なった。まだまだ全体を通して満足のいく成果とはいえないが、多様化している指導課題に対して苦慮しながらも取り組んでいる。従来の指導観として取り組んできた管理と指導という側面から、共感と支援という指導観に移り変わる中で、生徒・教員・家庭の三位一体となった指導を進めていきたい。今後も城南生としての在り方・愛される学校づくりを念頭に掲げ、より一層生徒指導に邁進していきたいと考える。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	やる気を持つ生徒に対しての対応は、本当によくやってくれていると思います。また、企業とのコラボレーションで色々な企画を考えてくれており、生徒にとっていい経験となっています。今後もぜひ続けていってほしいです。
B	一番大切で一番難しい年齢の指導なのですが印象は良く感じる。これも人それぞれなので、明もあれば暗もあると思います。学校に訪問する機会がある際に、生徒がいつも挨拶をしてくれるのが印象的です。

令和5年度 学校評価書

令和6年3月22日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価		
目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
<p>進路指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業生全員の進路実現 ○1, 2年生の進路意識の高揚 ○学問探究心、職業観の育成 	<p>3年次の進路実現に向けて1, 2年次から体系づけて指導を行っている。小論文講習や面接講習をはじめとする様々な講習を対面で実施した。特に、小論文はその後の個別指導においても専門教科に具体的指導をお願いし、継続的に書く指導を行った。進路ガイダンスでは感染症対策のガイドラインを策定して予防措置をとって例年通りの規模で開催した。夏休みや5月～7月の土日を活用したオープンキャンパスバスツアーを実施し、県内外の有名私大の比較研究を呼びかけた。高校3年生の進学予定者の傾向として総合型選抜や学校推薦型選抜を活用する生徒がほとんどであった。選考方法が、小論文、口頭試問、プレゼンテーション、基礎学力試験など複雑であったため早くから準備を開始し、長期的に個別指導を徹底した。</p>	<p>B</p> <p>多くの生徒が自らの適性について熟考し、目標とする進路に向けて活動し決定することができた。進学者は、年内入試から果敢に挑戦し成果を残すことができた。上位私大へのチャレンジし4年制大学の進学が増加した。専門学校への進学者は例年並みで、特に国家資格を必要とする医療系への進学、情報系の分野への進学が増加した。総合型選抜、学校推薦型選抜の実績を上げていくためには、今後も個別対応して継続的な指導に力を入れる必要がある。就職は売り手市場で50名の就職希望者に対し求人数が10倍を超えていたため内定率も高かった。就職希望者の多くが意欲的で、複数企業の見学会に参加し積極的に活動することができた。そして、今後は教員の指導力向上を図るべく、教員向けの講習やマニュアル作りが必要となる。また、事務作業の効率化を図るため、ICT活用を積極的に行っていきたい。</p>
<p>保健厚生部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心身の健康保持増進 ○感染症対策 	<p>コロナ感染症、インフルエンザ対策として、休み時間の換気の徹底を呼び掛けた。精神的な不安定から起こりうるいじめ問題への対処法について、講師を招き、本校教員へむけた講習会を実施した。薬学講座では、薬物への正しい知識を生徒に身につけさせた。</p>	<p>B</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、様々な制限が緩和され、本校でも感染症拡大前のように多くの行事を実施した。生徒の体温の測定は、その強制力を失ったため、生徒の体調管理情報の収集が難しくなった。しかし、感染者が増加傾向にあるクラスには、それまで毎日実施させていた健康観察アプリへの健康状態の入力を呼び掛け、学級閉鎖などの対応を早期段階で実施することができた。</p>

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	<p>進路目標に向けて進学・就職ができており評価できる。大学等のオープンキャンパスについては指定された学校だけでなく、もっとたくさんの方に学校に行くような指導をお願いしたい。</p>
A	<p>コロナ禍も3年となり学校も大変かと存じますが、生徒のために対策を講じてもらいたいです。</p>

令和5年度 学校評価書

令和6年3月22日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
部活動	○生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる ○より高いレベルの大会等で結果を残す	基本的生活習慣の育成を柱とし、厳しさの中にも慈愛に満ちた指導を心掛ける。運動部においてはスポーツをする楽しさや喜びを忘れず指導にあたる。文化部においては芸術系や学問系の技能向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。	A 本年度も感染症対策を徹底したうえで、各種大会が行われた。全国大会に出場した部活動があり(水泳、新体操、テニス、バスケットボール、ボクシング、簿記)、活発な活動を行うことができた。高校では水泳部が全国ジュニアオリンピックで個人優勝、県高校総体で個人優勝、簿記部が県簿記競技大会で団体と個人で優勝、中学では新体操部が全国中学総体で団体準優勝、水泳部が県中学総体で団体優勝と、運動部・文化部とも活躍した。
教職員の資質向上	○様々な事情の生徒への対応力を身に付ける	現在中学・高校に通う生徒は程度の差があるにせよ、様々な事情による悩みや不安を抱えている。そうした生徒への対応力を身に付けるために、今年度は2回職員研修を実施した。1回目は8月に「SOSの出し方研修」として静岡市こころの健康センターから講師を派遣していただき、様々な生徒のSOSの事例をあげていただきながら、その対処方法を学んだ。2回目は12月に「いじめとその対応について」として本校のスクールカウンセラーを講師に迎え、「生徒間のトラブル」と「いじめ」の関係について理解を深め、その対処法を考えた。いじめの定義や組織的な対応について共通の理解を深めることができた。	A 近年、様々な事情を抱える生徒への対応力を高める必要性を感じていた中、教員のスキルアップにつながった。しかし、生徒への対応はケースバイケースなことがほとんどであるので、今後も継続して同様の研修を取り入れる必要があると思われる。また、デジタルアレンジコース担当教員を中心に校舎へのプロジェクションマッピングを柱とした「城Nightフェス」を10月に開催し、昨年比2.5倍の鑑賞者を学校に招くことができたイベントとして成功を収めた。
保護者との連携	○学校と保護者双方で生徒を育てるという意識で連絡を密にする	コロナ禍からの脱却を図り、PTA総会・参観会・学園祭を通じ保護者が学校に足を向けられるような状況を作る。また、各行事に保護者が積極的に参加できるような雰囲気を作っていくたい。	A 今年は多少の制限はあったものの、ほぼコロナ禍前の状況に戻すことができた。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	水泳部や簿記部など成果の出ている部活はあるが、その他の部活も負けずに頑張ってもらいたい。また、生徒だけでまとめられないところは職員の支えが重要となる。見守りをお願いしたい。
A	生徒に寄り添いながらの指導を今後もお願いしたい。
A	求める人の対応は答えてくれていると思う。以前のように、保護者が学校に足を向けられるような行事等を今後は増やしてもらいたい。

令和5年度 学校評価書

令和6年3月22日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事等の地域の方の参加を促す ○地域のイベント・地域企業のイベント等の参加 ○学校施設の貸し出し 	昨年度実施したプロジェクション・マッピングが地域の方々に高評価であったため、本年度も実施し昨年を上回る動員があった。また、駐車場やプール、テニスコート、体育館などを市や駿河消防署、外部団体に貸し出しをした。地域の防災会議に数回参加し情報を共有した。	A コロナ禍で中断していたことが少しずつ通常に戻りつつある。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○新生入生に情報機器の貸し出し ○本館補修工事及びプール補修工事 ○備品の入れ替え 	本年度もI C T科の生徒にノートパソコン、普通科・中学生にiPadの貸出を行った。その他、校舎玄関屋根及び5階、3階バルコニーの補修工事、プールボイラー及び濾過機の補修工事を行った。また、50年以上使用してきたピアノが老朽化のため入れ替えを行った。	A 本年度も新生入生に情報機器を貸し出すことができた。本館については17年が経過しあちらこちらから修理が必要となっており、大規模改修を行う日が近づいている。今後とも管理をお願いしている建築事務所とも相談して適切な処置をしていきたい。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	引き続き連携を進めるように各団体と話をしている。また、災害時の対応等も地域と密にお願いしたい。
A	生徒に負担の少ないような施設対応は良いと思う。

学校からの経営のまとめ(成果と課題)
この年代の生徒は、3年間の授業を制限がかかった状態で行っていました。ずっとマスクを着け、挨拶も大きい声を出さず、食事も黙食で食べていました。出身小学校や中学校でもコロナの影響で静かな学校生活を送ってきたと思われる。そのまましゃべることも挨拶をすることもできない生徒になるのかと不安でしたが、朝の挨拶を見ていると、大きい声で挨拶をして、お辞儀もしっかりしてくれます。コロナ前の生徒よりも相手に対して挨拶が見えるように、聞こえるように、目線や顔の表情が見えるように心がけてくれています。まだ、校歌や校訓のように皆で一緒にというのは心配ですが、マイナス面だけではなく表現力は前よりも進歩したように思います。以前より礼儀正しいように感じます。社会に出るとプレゼン能力が問われますし、そのための知識も授業で養ってきました。発信する能力と聞く能力も必要です。傾いたり手を動かしたりだけではなく顔の表情や目線がしっかりしていることが重要です。本校では今後、自ら進んで考え行動する能力と相手の事を考えて話をすることの出来る能力を培っていききたいと思います。服装を整え礼儀を理解した生徒とともに未来を考えていききたいと思います。

まとめ	
A	少子化がさらに進んでおり、学校の特徴を全面的に打ち出すことが今後の経営においてさらに重要になってくると思います。その上でコロナ禍で各校とも同じような対応しか取れなかった数年間から脱却し、学校内外ともに新しい展開ができることを期待したいと思います。